

～7月に園内で発生した感染症～

- ・ヘルパンギーナ (高熱、のどに小さな水泡が沢山できる。) じわじわと**流行が続いています!**
- ・手足口病 (口の中や手足に発疹が出る。熱が出ることも。)
- ・咽頭結膜熱 (プール熱) 疑い (高熱が出て、目が充血したり、涙が出たりする。)
- ・下痢

保育園では、熱中症計を外に設置し、暑さ指数を見ながら、外遊びの時間やプールの時間を短縮したり、時には中止の判断をし、子どもたちに無理のない活動内容で保育を行っています。室内はエアコンを使用して室温湿度の調整を行い、水分補給の声掛けをしながら体調の変化に気を配っています。ご家庭でも、バランスのいい食事、十分な睡眠で、規則正しい生活リズムを心がけ、暑い夏を乗り切りましょう。

**熱中症に
気をつけよう**

子どもを車中に
残さない



WBGTってなに?

熱中症の危険度を示す数値を、暑さ指数 (WBGT) と言います。WBGTは、気温や湿度、輻射熱 (日差しや建物、地面などから受ける熱) などで決まります。天気予報でも伝えているので、表を参考に熱中症に気をつけましょう。

暑さ指数 (WBGT)	活動の目安	注意事項
(31以上) 危険	すべての活動で熱中症がおこる危険性	外出はなるべく避け、涼しい室内で生活する
(28以上31未満) 厳重警戒	掃除などの活動でもおこる危険性	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意
(25以上28未満) 警戒	激しい運動などでおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的な十分な休息を取る
(25未満) 注意	激しい運動などでおこる危険性	危険性は少ないが激しい運動や重労働時には熱中症の可能性も

※日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.1」(2022) 参照

子どもを絶対に車内に残さないで

毎年、夏になると車内に残された子どもが熱中症を発症する事故が起こります。

ある実験で、気温35℃の12時から4時間の間に、車内温度 (約25℃) がどれくらい上昇するかを調べました。

結果は...

時間	車内温度
12:00	約25℃
12:05	約35℃
12:30	約45℃

たった5分で10℃上昇!

冷房で車内温度を約18℃にしていた場合でも、エンジンを切って15分後には熱中症の危険度が高い約31℃にまで上昇しました。冷房をつけたままでも危険です。ガラスからの直射日光や、空気の乾燥で汗が蒸発して脱水状態になりやすいため、熱中症のリスクがあります。

「すぐに戻るから」「寝ているから」...どんな理由があっても、子どもを車内に残さないでください。

